

みんなで歩こう 自動車道



東海環状自動車道の関広見インターチェンジの開通を前に「開通記念ウォーキング大会」が3月29日に開催され、地元住民約3,000人が真新しい自動車道を自分たちの足で歩いて完成を祝いました。歩いた

区間は長良川橋までの往復約5キロで、途中トンネルや橋もあり、参加者は自動車道から見える素晴らしい景色を堪能しました。関広見インターチェンジ～美濃関ジャンクションは4月18日に開通します。

あんな事、こんな事



スポーツ功労者や優秀選手を表彰

平成20年度に関市のスポーツ振興に尽力した功労者や、全国大会などに出場し優秀な成績を収めた選手を表彰する関市体育協会表彰式が市役所で行われ、個人、団体合わせて192人の功労者や選手が、酒井田定男関市体育協会長から表彰を受けました。受賞者を代表し、体育功労賞の武井周一さんは「今後も関市のスポーツ発展に取り組んでいきたい」と力強く述べました。

火中を渡って無病息災

迫間の迫間不動尊で3月22日、恒例の春季大祭「火渡り神事」が行われました。当日はあいにくの雨でしたが、神事が始まるころには一時やみ、県内外から参拝者600人が見守る中、山伏姿の行者10人が神事を執り行いました。マツの割木で作られた全長約4.5メートルの燃えさかる火床を、参拝者らは無病息災などを願って素足で渡っていました。





元気に大きくなってね

3月18日、上之保小学校の3～4年生児童28人が、学校の近くを流れる津保川にアマゴの稚魚を放流しました。昨年の秋に卵からかえり、水槽とプールで育ててきた数百匹の稚魚は体長3～4センチまで成長。来年開催される「全国豊かな海づくり大会」の説明を市職員から聞いたあと、児童らはバケツに小分けされた稚魚をゆっくりと川へ放流していました。



愛する長良川のために

3月17日、金竜小学校4年生児童118人が長良川の河川敷をきれいにしようとごみ拾いを行いました。校区を流れる川についての学習の締めくくりとして行われ、千足大橋から下流約500メートルの長良川左岸河川敷を児童らは1時間かけてごみを拾い、タイヤやテレビを含め、ごみ収集車1台分にもなったごみの山を前に、「もうごみを捨てないで」と訴えていました。

関市のファールブル

第52回岐阜県児童生徒科学作品展小学生の部で、最優秀賞を受賞し、県代表として全国児童才能開発コンテストに出品し「全国都道府県教育委員長協議会会長賞」を受賞した倉知小学校の山田佑哉さんが市長を訪問し、受賞の喜びを報告しました。山田さんはミミズの生態観察を昨年5月から夏休みにかけて研究。成果がまとめられた大きなパネルを持参し、市長に内容を説明しました。



関のまちのちょっといい話

関市社会人権同和教育推進委員会の中島綾子委員長と同委員会活性化部会の西村祺子部長が関市教育長を訪問し、身の回りの心温まる出来事を紹介した小冊子「関のまちのちょっといい話」の完成を報告しました。中島さんは「身の回りの心温まる出来事を読んで、よりよく生き合うための一助となれば」と話していました。この小冊子は生涯学習課にあります。



こぼれ話



4月2日、市内の関鍛冶伝承館において、NHKラジオの公開放送が行われました。東京から特別なバスが関鍛冶伝承館にやってきて車両の後部が開くと、ラジオスタジオが現れました。3月上旬ごろ、NHKから広報課へ「関市内からラジオの全国生放送をしたい」との依頼があり、担当の方と打ち合わせをしながらふるさとの自慢をしていただける市民を探しました。関の自慢といえばやはり刃物と鶴飼。刀匠さんと鶴匠さんのほかにも

全国の視聴者へ向けて関市をアピールするために3人の方に出演していただきました。特産品の名人やあんどんみこし作りに燃える方、そしてまちづくりNPOの若者の3人でした。NHKによるとこの番組は全国で約300万人の方が聴いているとか。私は初めて公開生放送を見学しましたが、こうした絶好のPRのチャンスを生かして、関市の魅力を日本中に発信したいと改めて思いました。ちなみに、4月18日の午後0時40分から同番組の再放送があります。お楽しみに。